

令和7年度いみず学生アイデアコンテスト 実証実験成果報告（概要）

提案者	石黒 詩歩（富山県立大学）	選択テーマ	小杉駅周辺地区の賑わい創出について
提案名	ペットとつくる小杉の賑わいと共生のかたち		
提案概要	ペットを通じたイベントの実施により、多世代の交流促進及びペットの災害対策に関する啓発を実施		

実証内容

「こすぎペットえんがわ」の開催

【実証目的】

- ペットをテーマとしたイベント開催により、多世代交流を促進。
- 小杉地区の飲食店に出店してもらい、地域の魅力発信と賑わい創出につなげる。
- 関心の高まっているペットの災害対策に関する展示・啓発により、防災意識の向上を図る。

【実証内容】

- 開催日程：2025年9月27日（土）（アートin小杉と同時開催）
- 開催場所：荒町緑地（神明すぎの森公園）
- 開催内容：
 - ・ 肉球スタンプラリー
 - ・ コミュニケーションマーク配布による交流促進
 - ・ ペット防災クイズ
 - ・ ペットお絵描きボード
 - ・ 地元飲食店のグルメブース



実証成果

- 約150名がイベント参加。ペット連れの方、ペットを飼ったことがない方の両方に興味を持ってもらえた。
- 参加者の8割以上が本イベントに満足され、リピート意向も約9割あった。
- アートin小杉との同時開催により、人通りの増加や市外からの誘客もできた。
- イベント開催により「小杉まちづくり協議会」とのつながりができ、同団体主催の別イベントでもペット防災クイズ等の出展を実施した。



振り返り

- 企画を作って終わりではなく、当日の参加者の反応を見ながら企画を変更したり声掛けしたりという工夫をすることで参加者の満足度を向上できると感じた。
- ペットによって小杉のまちに新しいコミュニティを作ることの可能性を感じた。

令和7年度いみず学生アイデアコンテスト 実証実験成果報告（概要）

提案者	地域協働研究会COCOS（富山県立大学）	選択テーマ	海老江海浜公園を「未来の海辺の遊び場」に！
提案名	ワクワク！海老江海浜公園ビーチクリーン大作戦		
提案概要	海老江海浜公園でビーチクリーンの開催及びワークショップ実施により、海老江海浜公園を訪れる人がワクワクする体験を生み出す		

実証内容

「ビーチクリーン」の開催

【実証目的】

- 参加型のビーチクリーンイベントを通して参加者の行動変容を促す。
- こども向けワークショップの開催により、海老江海浜公園により親しみを持ってもらう。
- ワクワクするゴミ箱の設置により、ポイ捨てを減らすことができるかの実証を行う。

【実証内容】

- 開催日程：2025年8月9日（土）
- 開催場所：海老江海浜公園
- 開催内容：
 - ・ビーチクリーン
 - ・こども向けワークショップ（アクアリウム作り）
 - ・ワクワクするゴミ箱設置



実証成果

- 26名がビーチクリーンに参加。半数が20代の若者だった。参加者からの満足度は高く、約9割の方が環境問題への関心が高まったと答えた。
- ワークショップ参加者の満足度が高く、次も参加したいという意欲的な意見が多かった。
- ゴミ箱設置は当初予定より短期間となったが、投票式のゴミ箱としたことで設置に対して効果や面白味を感じてもらえた。



振り返り

- 参加者からは次も参加したいという好評な意見をいただいたが、想定よりも参加人数が少なく宣伝が足りなかったと感じた。
- 自分たちで企画運営をしたことで、海老江海浜公園の景観等への意識が変化した。

令和7年度いみず学生アイデアコンテスト 実証実験成果報告（概要）

提案者	Engine（富山県立大学）	選択テーマ	ビジネスプラン枠
提案名	内発的学び循環で未来を拓く実践型わくわくプログラミング教室		
提案概要	こどもの内発的動機づけを目指したプログラミング教室を開催する。		

実証内容

「プログラミング教室」の開催

【実証目的】

- 「こどもが自ら学び続ける社会」を実現する。
- 内発的動機づけによりこどもに自発的な学習習慣を獲得させる。
- プログラミング教育に関する教員負担を軽減し、学びの質を向上させる。

【実証内容】

- 開催日程：2025年8月3日（日）～31日（月）の期間に6回開催
- 対象者：小・中学生
- 開催内容：
 - ・プログラミング教室の開催
（こどもや保護者のニーズ調査、教室に参加したこどもの学び意欲を変化させられるか、ビジネスとして成立するか等、将来的な起業を目指して実証する。）



実証成果

- プログラミング教室に5名が参加し、参加したこども、保護者共に内容に満足された。
- 教室でこどもたち同士が教え合う姿が見られたり、終了後に次回への期待のメッセージをもらったりと、「学んだこどもが先生になり学びを循環する」という目指すモデルに自信を得た。



振り返り

- 教室の実施場所代が想定以上にかかったこと、PCレンタル料について保護者の負担感が大きかったこと、有料教室の集客が思うようにいかなかったことから、ビジネスとして収支を安定させることの難しさを感じた。
- 参加したこどもたちからは楽しかった・もっとやってみたいという前向きな感想があり、こどもの主体的な学びの場をつくることに手ごたえを得た。